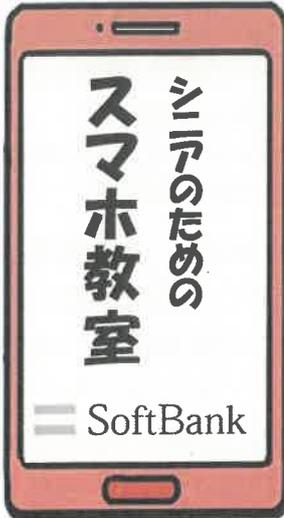


# 旭公民館だより

発行 令和8年1月  
旭公民館  
館長 伊吹 公雄  
電話 45-5903  
FAX 45-5903



## 安心・安全にスマホを楽しもう!!

### ～“デジタルリテラシー”の必要性～

昨年3回行った「シニアのためのスマホ教室」では、スマホの操作方法やアプリの使い方のほかに、SNS（インターネット上で人と人がつながり、情報をやり取りできるサービスのこと）で詐欺被害にあわないためにはどうすれば良いかなども学習しました。

概要を紹介します。

スマホなどデジタル機器の活用のためには、基本的な操作に加え、ネット通販や検索サイト、ネット上のコミュニケーション等のオンラインサービスの利用方法や特徴の理解、それらの利用に伴う責任を理解することが重要です。

**デジタルリテラシーとは**  
違法・有害情報や偽・誤情報に惑わされず、適切に情報を理解・活用する能力を指します。

インターネットやSNSには、多くの情報や広告、多種多様な意見があふれています。上手に使える自分の欲しい情報をすぐに手に入れられたり、世界中の人と意見交換をできたりとても便利な一方で、中には間違った情報や信頼

できない意見もあるかも知れません。情報を取捨選択し、適切に選ぶということがとても大切です。

偽・誤情報は思わず人に共有したくなるようなインパクトのある要素や、みんなに役立つと思われる要素が含まれていることが多くあります。

インターネットの情報を受け入れる際には、その情報の情報源をよく吟味し、情報の真偽を判断することが重要です。その情報はどこから、いつ発信されたものか、専門知識や資格を持った人が責任を持って発信してるかなど確認が必要です。興味を引くけど少し怪しげな広告や誰でも儲かるといった話には、特に気を付けてください。



また、ロマンス詐欺や投資詐欺などの被害に合わないために、何かおかしいかなと思ったらまずは、信頼できる警察や消費生活センターなどに相談することが大切です。

参加者から「自分とは関係ないと思っていたけど、誰にでも起こるかもしれない」「いい勉強になりました」etc.

「自分は大丈夫」と思っている、相手はだましのプロです。うまい話には注意して、まず一步引いて冷静に。

これからも、安心・安全にスマホを使っていくために、学び続けることが大切です。

今回のスマホ教室は、総務省の「デジタル活用支援推進事業」に参画しているソフトバンク株式会社のご協力により実施しました。



スマホ教室参加者の学習風景

(裏面へ)

## 地域の誇りを次世代へ

～「名医死す」DVDが各公民館に配布されました～

企画・制作:広島県府中市 備後ふちゅうフィルムコミッション

監督:松村 克弥 脚本:田中 貴大 上映時間:54分

明治時代、感染症の猛威と闘い、多くの命を救った府中市出身の医師・藤野昌言（ふじのしょうげん）氏の生涯を描いた再現ドラマ『名医死す～感染症と闘った藤野昌言物語～』のDVDが、このたび市内の各公民館に配布されました。

物語は、現代の案内人（林家三平）が“コレラ地蔵”を訪れる場面から始まり、藤野昌言の功績や、彼と関わった人々の姿を再現ドラマとインタビューで描いています。混乱の時代に人々が助け合い、希望を見出していく様子が丁寧につづられ、医療従事者への感謝の思いも込められた作品です。

この作品は、令和2年度、まさに新型コロナウイルス感染症が世界的に広がる中で制作されました。かつてのコレラと、現代の感染症。時代を超えて命と向き合った医師の姿は、今を生きる私たちに多くの気づきを与えてくれます。

地域の歴史を知り、命の尊さを学ぶ貴重な教材として、今後の学習会や上映会などでの活用が期待されます。いきいきサロンなど地域の集まりの場でも、ぜひ活用をご検討ください。

公民館が、地域の記憶と人の想いをつなぐ場所として、これからも大切な役割を果たしていきたいと思いを。



＝藤野神社香古堂＝  
藤野昌言の人徳を慕った郷土の人々が建立した祠堂

藤野神社



### 新年の伝統行事

「とんど」

各地域で

にぎやかに開催



笹酒が振る舞われました。  
今年も健康でありますように！

地域の絆を感じる、心あたたまるひとときとなりました。伝統を守り、世代を超えてつながる行事として、これからも大切に受け継いでいきたいですね。

新年を迎える風物詩「とんど」が、旭公民館管内の各地域でにぎやかに開催されました。

広谷町では、当初予定していた11日（日）が強風のため延期となりましたが、翌12日に無事開催され、子どもから高齢の方まで多くの住民が集まり、寒さを吹き飛ばすようなあたたかな雰囲気になりました。

これまで子ども会・町内会が主催してきた「とんど」ですが、開催が見送られることとなり、代わって二年前から町内の有志の皆さんがその思いを引き継ぎ、準備から当日の運営まで力を合わせて実施されました。

「伝統行事であるとんどを絶やしてはいけん。門松などを燃やすとんどはないといけん」との声のもと、小規模ながらも地域の想いが詰まった行事となりました。「やっぱりこれを見ると新年が始まった気がするね」「火のあたたかさありがたい」といった声が聞かれ、子どもたちからは

「焼いたおもちがおいしかった！」と笑顔も。

